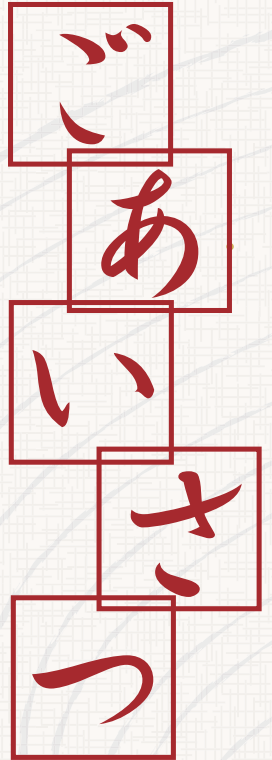


新年の



笠間市長 山口 伸樹

あけましておめでとうございます。
市民の皆さまには、輝かしい新春をお迎
えのこととお慶び申し上げます。

◆ 昨年を振り返って

昨年を振り返りますと、長引く新型コ
ロナウイルス感染症をはじめ、ウクライナ
情勢や歴史的な円安等によるエネルギー・
食料品等の物価高騰等が市民生活や地域
経済活動に大きな影響を与えました。

このような中、本市では、市民の皆さ
まの命と健康を守るため、幅広い年代を
対象に、迅速かつ円滑なワクチン接種体制
の整備を進めるとともに、物価高騰等の
影響を受ける「生活者」と「事業者」の方々
に対し様々な支援を講じるなど、「感染対
策」と、「経済対策」の両輪により、臨
機応変に取り組んだ一年でありました。

一方で、大変喜ばしい話題もございました。
本市出身の佐藤風雅選手の世界陸上競技
選手権大会オレゴン2022の4×400m
リレーでの入賞や、大沼和彦選手のパラク
ライメージ世界大会優勝、市内に本社を置く
茨城アストロプラネッツのプロ野球独立リー
グルートインBCリーグ南地区の優勝、3×3
(スリーポックスリーグ)のプロバスケットボー

ルチーム茨城BACKBONE（バッ
クボーン）の市内での設立、さらには、
4月に開校した日本ウェルネス高等学
校女子バレー部が創部1年目にして全
国春の高校バレー出場など、多くの
方々に夢と感動を与えてくれました。

このような中、市内のスポーツ資源
を活用したスポーツ振興・地域活性化
を目指す「笠間スポーツコミッション」
は、昨年、一般社団法人化による組織
体制や機能の強化を図るなど、「スポー
ツシテイクさま」の実現に向かって次
なるステージへと歩み出しております。



(一社) 笠間スポーツコミッション
(コワーキングスペース「IROHA」内)

◆ 新年の抱負―笠間の未来を創る―

脱炭素社会の実現といった地球規模
の課題とともに、急速な人口減少、少
子化・高齢化の進展を背景とする市民
の日常生活や地域活動上の問題、そし
て地域経済の活性化、さらにはあらゆ
る分野での人材不足など様々な課題が
顕在化しており、これらへの対応が急
務となっております。

本市では「未来に向けた笠間づくり」
といたしまして、脱炭素社会の実現に
向けた取り組みの具体化、デジタルの
力を活用したまちづくり、地域資源を
活用したまちの活性化、さらには多様
な人材の確保に向けた取り組み等を、
感染症や物価高騰等への機動的な対応
とともに進めてまいります。

◆ 脱炭素社会の実現

未来に向けて持続可能な社会を構築
するため、脱炭素社会の実現に向けた
公民連携による取り組みを進めてま
います。

市と金融機関、電気事業者との連携
体制を確立し、市内再生可能エネルギ
ーの地産地消化や、家庭・事業者に対す
る普及啓発、市内森林資源を活用した
CO2削減等を推進します。

また、公共施設における太陽光発電
システムの導入、さらには、全国の先
進モデルとなる「脱炭素先行地域」の
選定を目指し、脱炭素社会の実現に向
けた取り組みを加速させていただきます。

◆ デジタル化の推進

未来につながる地域社会の実現に向
けて、人口減少・少子化・高齢化の進
展を背景とした日常生活上の課題に対
し、デジタル技術を活用し、買い物や
交通といった生活に密着したサービ
スの向上を図る「笠間版デジタル田園都
市モデル事業」を、昨年、福原地区を
モデル地区に、3年を実施期間として
スタートいたしました。



マルチタスク車両による
オンライン窓口（動く市役所）の実証実験

今後、実証事業を経て、住民にとって必要なサービスの実装、他のエリアへの波及等の検討を進めてまいります。

また、デジタルの力を活用した新たな取り組みとして、マイナンバーカードの申請や、オンライン診療、相談業務など、場所を選ばず幅広いサービスの提供を実現する「動く市役所」の導入に向けた研究を進め、デジタル・デイドの解消と、市民サービスの向上を目指します。

同時に、デジタル人材の育成・確保にも積極的に取り組んでまいります。

◆ 子ども・子育て支援

本市は人口減少の状況ではありませんが、2019年から、30歳から40歳代では、転入が転出を上回る社会増の状態となっております。

未来を担う子どもたちが健やかに成長できるよう、子育て・現役世代に対する支援として、妊娠・出産から子ども成長期にあわせた相談体制の強化や、支援制度の充実化に取り組んでまいります。

また、小・中・高・大学連携による特色ある教育を推進し、子どもたちの特性を伸ばす教育環境を構築するとともに、台湾等との連携による本市の強みを生かしたグローバル人材の育成にも取り組んでまいります。

さらに、あたご天狗の森公園のリノベーションをはじめ、笠間中央公園や

笠間芸術の森公園の利用環境の向上、さらには街の空間を活用した子どもと親世代が集う場の創出など、本年度の重点施策として、ソフト・ハードの両面から、子育て支援策の更なる充実強化を図ってまいります。

◆ 企業誘致の推進・産業支援等

企業誘致について、昨年までに茨城中央工業団地及び周辺地域に11社の企業進出が決定し、そのうち7社が操業を開始しております。

今後、残る北側区画について、県と連携した誘致活動を進めるとともに、ホテルの立地促進にも、より積極的に取り組んでまいります。

また、将来を見据えた市内道路環境の向上策として、北関東自動車道笠間P AスマートICの整備促進や、市街地エリアの渋滞緩和対策にも取り組んでまいります。

さらに、「笠間の栗」のブランド化の更なる向上を目指し、昨年、既存組織を再編し、新たに設立した「儲かる笠間の栗産地づくり協議会」での議論をさらに深めるとともに、質と量の確保に向けて、焼き栗等加工技術習得の支援や、農地の集約化・作業効率の向上など、笠間の食文化を未来につないでまいります。

◆ 交流による地域活性化

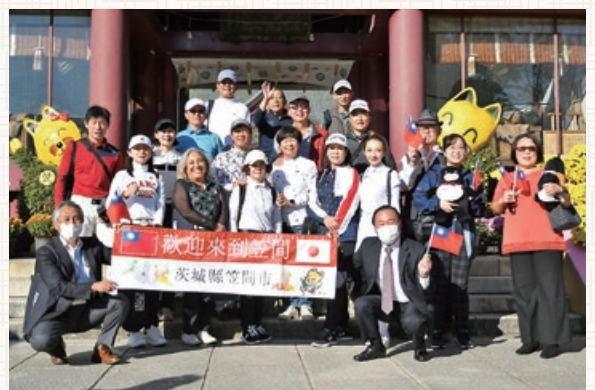
昨年、開業1周年を迎え、来場者100万人を達成した「道の駅かさま」や、「ムラサキパークかさま」の交流拠点を整備されたことで、新たな来訪客の獲得そして市内周辺エリアへの回遊が生まれてきています。



道の駅 かさま

また、入国制限の緩和等によりインバウンドも含めた観光需要の回復が今後期待される中、更なる回遊性の向上、誘客の促進に取り組んでまいります。

さらには本年、笠間市台湾交流事務所が開設5周年を迎えます。これを契機とし、観光分野をはじめとした台湾との交流を通じて、これまで築いてきた「人」とのつながりを生かしながら、新たに、教育や産業面での交流を深めてまいります。



インバウンド再開後、笠間市を訪れた台湾からの観光客

以上、本年のまちづくりへの抱負の一端を述べさせていただきました。

人口問題や環境問題等を背景に顕在化する様々な地域課題を克服し、「笠間の未来を創る」ため、行財政改革を念頭に市政運営に取り組んでまいります。

結びに、本年も変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆さまにとりまして希望に満ちた年になりますよう心からお祈り申し上げます、ごあいさついたします。

